



松陽先生秋七字



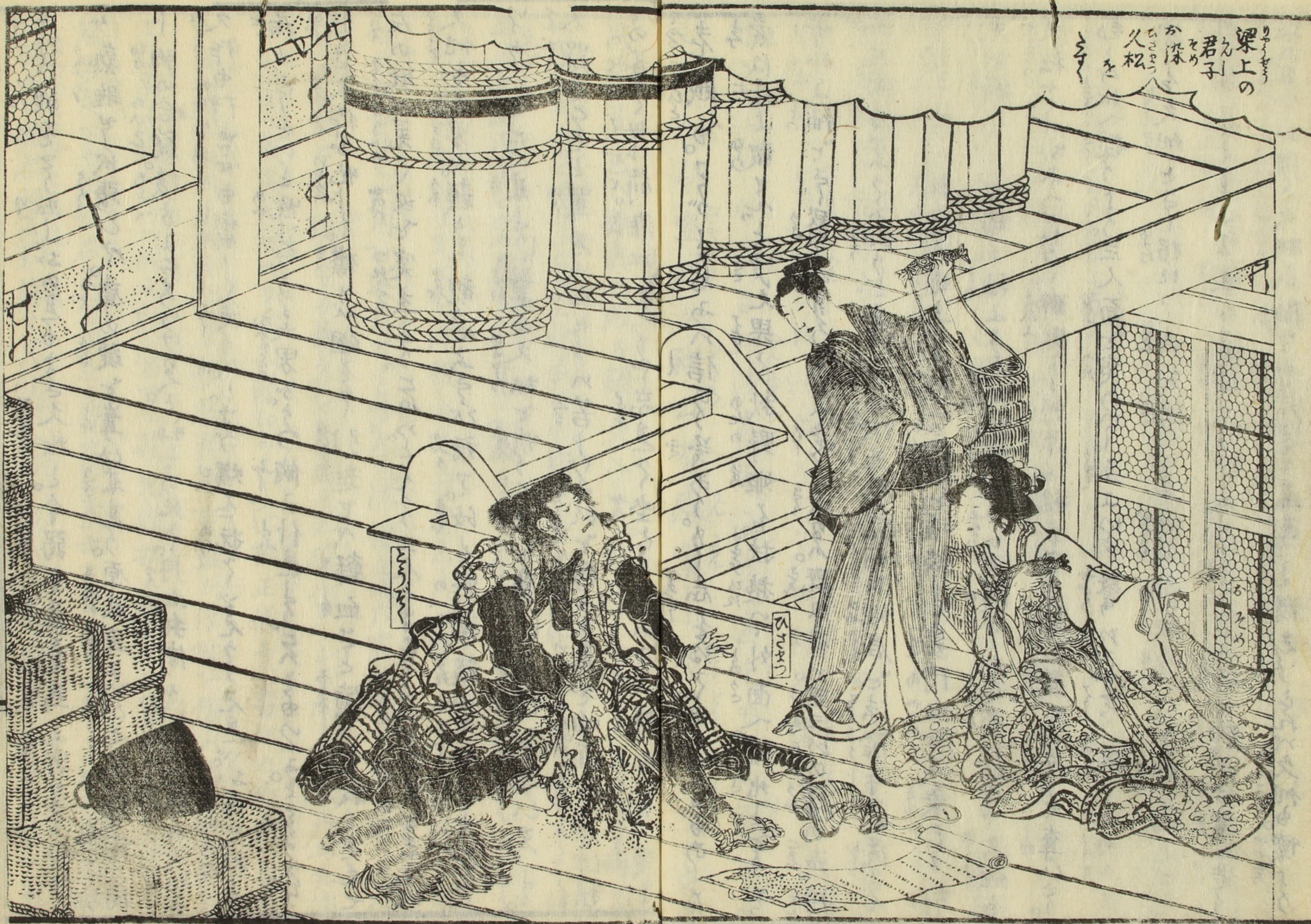
^13
3917
6



公案清史

大和路へと落ると、叮嚀に説諭し懐く。財布を失ひ進められた。
標丸はこゝを受ぐ。やうやく怪し。梁上より君子あり。さうある汝が餓別汚
まふものと思ふべし。快ようねど。大功ハ細瑾を顧む。是も又神仏の擁護
と云ふ。且よくその意は随んて戸口を固く鎖せられ。今更出らうとする。
何知よう脱走せん。と向ひて盗賊答ふ。禍由三年経る。後う
その益するや。ゆあらず。壁を踰壁を穿つ。つかぬる所あり。いそ案
内しておさん。と信じし。庫の窓より鐵網を只一拳で打破り。
索を純々楷子とし。窓へ突くと投げつけ。さへいと手をと
く。おのが脊へ踏のほし。漚くびきと外面より雪白妙イ降
積り吹く風寒さを如法夜をえん久まともその面を
どの標丸も盗賊か。弑公を感嘆し。劫掠をするところ

梁上の
君子
か深
久松
を



一世の契と歎く。母の歎きも不便なり。あれば汝が清き心にて。
その名小象の女児。お漆と小所久松が情死せし。と世に授けし。
法隆寺へ葬るせん。と一か舊の歌子あり。と世に冥土へ果し。
あゝ。仏果をる。といひ諭し。脱落さぬ胸をうら。泣く母より。
ぞ。す。夫婦が戒と窪六と只管は唱歎し。それ野草摸。
小謀らま。操丸と。術艶郎の隊。入。つ。ひ。ひ。その禍も忽ち。
お福と。推后と。姫君の奇耦。人間萬事塞翁馬。それゆ。何。
唧。え。只面。る。窪六の。あ。ま。遠く。慮。と。捕。氏。の。嫡。男。は。在。
さ。さ。家。不。り。由。操。丸。は。告。る。さ。し。と。く。由。悔。と。顔。
嗟嘆し。と。漆。松。と。莞。尔。と。う。笑。と。津。積。生。悔。の。母。の。
前。も。は。る。善。惡。吉。凶。時。の。時。の。十。二。年。の。罪。障。も。一。
よ。夜。は。滅。る。今。叙。の。飲。び。と。ひ。遺。と。る。も。南。阿。弥。陀。仏。と。唱。
つ。右。手。の。く。く。引。く。又。よ。と。ま。る。腸。を。二。叙。と。り。と。も。
五。臓。も。断。離。と。ひ。と。臨。終。と。ひ。弥。陀。名。号。の。奇。妙。頂。礼。
観。世。音。補。陀。落。山。と。い。高。見。慈。雲。慈。航。と。救。世。圓。通。の。佛。
智。佛。力。引。接。し。主。君。と。代。る。漆。松。が。冥。土。の。苦。難。を。救。ひ。と。
と。異。口。同。音。と。唱。入。る。お。う。外面。は。竊。聞。し。と。山。家。親。と。
呵。く。冷。笑。ひ。緯。の。す。と。審。と。つ。捕。か。餘。類。残。黨。室。町。
殿。は。冠。せ。ん。と。傷。痛。し。お。漆。久。松。を。獨。捕。と。洛。へ。と。一。世。乃。
僕。倖。一。郎。の。主。と。も。る。と。る。時。の。遠。く。の。走。と。追。ひ。著。
ん。とい。ひ。も。果。じ。舊。直。と。走。ま。れ。ば。兵。衛。窪。六。大。に。驚。死。引。留。ん。と。跳。う。
お。裾。は。蹴。と。と。稍。息。子。の。燈。火。由。漆。松。が。命。の。忽。ち。滅。つ。礎。と。い。ふ。



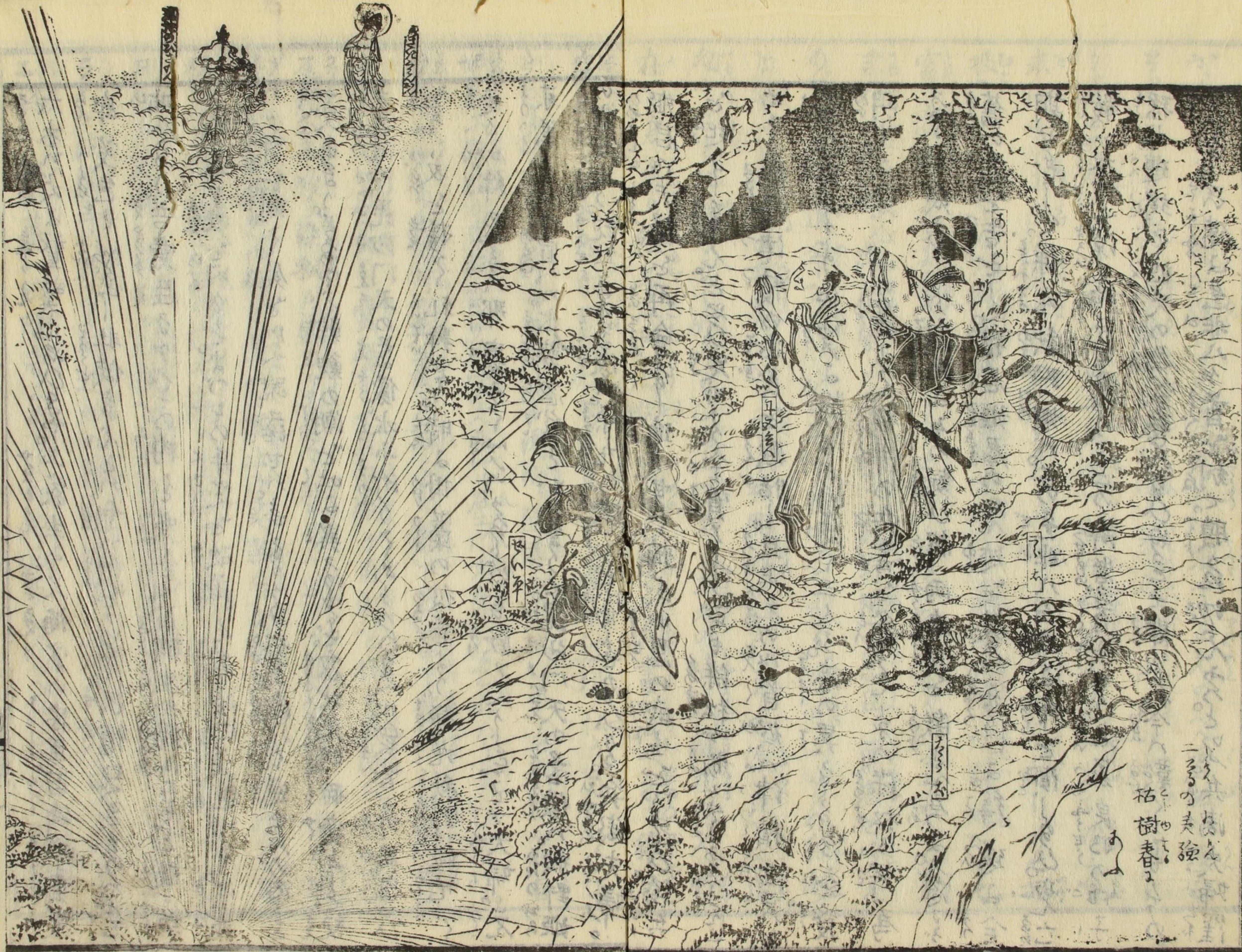
西狗 是 久松 害



阿世女命。雪の中は坐を占。自殺せんとする。やむを得ず。と
 思ひ。其の。樹。臺の脊。う。ま。う。あ。り。の。り。り。山。家。税。平。之。右。の。小。腹
 には。非。八。に。抱。き。あ。り。ま。す。不。と。う。近。く。あ。り。ま。す。兵。衛。達。六。これ。を。ん。る。奮
 然。と。身。を。起。し。が。君。臣。運。竭。て。る。外。あ。り。の。り。り。死。ん。だ。の。卒。ま。う。り
 一。つ。り。眞。土。の。伴。侶。と。あ。り。主。君。の。仇。人。山。家。税。平。脱。走。と。い。は。れ。ま。す。て
 り。つ。る。又。と。う。直。し。矢。庭。上。等。へ。と。競。ひ。あ。り。を。税。平。ハ。騷。ぎ。た。る。気。色
 する。と。や。う。く。入。る。と。正。の。り。と。推。禁。め。御。上。土。藏。の。外。面。あ。り。深。松。が。讖。悔
 物。と。う。く。沢。竊。同。一。標。九。秋。野。姫。の。う。へ。と。う。く。雜。居。津。積。の。賊。忠。感。ず
 不。め。の。り。の。り。も。名。告。れ。ば。輔。左。曲。一。既。正。儀。ゆ。の。近。臣。又。百。濟。右。馬。太。郎
 我。包。と。呼。れ。の。り。の。り。永。德。元。年。八。月。の。り。主。君。正。儀。の。送。命。を。稟
 楊。井。の。兵。書。を。正。儀。正。元。に。進。み。見。為。正。儀。自。殺。の。目。赤。坂。の。城。を。脱。れ
 ま。う。卒。ん。ぬ。山。の。古。廟。が。り。誰。と。入。る。と。件。の。兵。書。を。雜。居。の。系。譜。と
 籠。う。え。ま。す。の。り。の。り。兵。衛。言。直。の。正。元。と。い。ひ。く。を。見。と。ま。り。て。龍
 泉。の。域。外。の。野。臥。し。を。く。これ。を。張。へ。報。居。ハ。友。め。て。近。曾。逐。雷。と。往
 か。ま。ま。と。と。ま。え。し。ふ。と。不。失。い。ま。び。く。の。所。在。を。索。つ。十。年
 あり。の。光。陰。を。過。せ。程。は。南。帝。北。帝。に。合。體。せ。し。千。釵。破。の。城。没。落
 あり。正。勝。と。十。津。川。は。病。死。の。り。正。元。と。洛。東。四。祿。河。原。は。子。子。封
 死。の。り。迷。憾。や。う。と。ま。り。と。正。元。の。り。首。級。を。奪。ひ。ま。ん。と
 あり。有。一。夕。日。岡。へ。落。び。よ。る。の。り。等。く。彼。れ。首。級。を。奪。ん。と
 野。伏。の。番。卒。よ。り。出。て。突。戦。奮。撃。ま。る。の。り。我。包。本。意。を。遂。せ
 と。の。り。不。意。彼。れ。の。断。離。ら。ま。る。隻。袖。と。い。は。れ。を。疑。ひ。の。後
 方。は。跟。り。浪。々。と。赴。き。油。商人。丹。五。兵。衛。と。い。は。れ。の。り。の。り。の。り。

かくとさまで小御と運らる。その為人と張る。正元のおん首級と重む
る。その夜の勇敢且女兒お深が舉止併市井の少女おひ
く。その疑ふ。丹五兵衛へ難居兵衛あつて女兒お深と
未通女い正武の息女。秋野姫と。猪か件の隻袖をりて招
け。責より兵衛り栄利を謀る。羞を。秋野姫と。美
富商人る。よ妻を。と。包指婿と稱。彼家。密に秋野姫。愚臣が舊名を。え
め。正氏の遺命を述。難居が胸中。と。浪花と退
と。操井の兵書を。復。秋野姫の。浪花と退
初。往方。正元の嫡男操九の。所
在。組。の。兵書を。難居

姫君の夫婦を再會。進。楠氏旧恩の武士と。兵
と。今宵。由。津積が物。に
め。難居津積の忠義を感。且正元の首級。津積これを
奪。ひ。三人。志の異。を
明。山。操九の兵書を。深。保松。所
る。忽。疑。解。兩忠臣を。為。名
舊の名を告。推君姫君の。縁。全
期。操九秋野姫へ。是非。命。亡
殿。水。と。癖。首。名。良。子
孫。運。匹夫の。為。悲。今。其
ひ。只。速。是非。首を。腹。切。兵。夫婦



松竹史卷五

二の美強
枯樹春
あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

六木ハ大に驚嘆し。あひま。山家生也。又楠家の忠臣百濟右衛門太
郎美色と。必し壯使るんと。今ハ何ぞ。只憎むきりのハ。そ
非ハ。吾黨生る。その肉を喰ふ。百濟生の賜ふ。と散動
し。あひま。又を。つと。手定と。破落。と。苦。は。美色。と。非
ハ。首を刎。屍を川へ。蹴落。せ。奇。なる。水。氣。激。く。逆。の。心。
一丈。あ。ま。う。鯨鯢の潮を吐。異。る。忽。地。光明。赫。奕。と。記
菩薩陀毘沙門天の。像。水。に。折。り。く。あ。り。バ。衆。皆。奇。異。の。心。
又。を。捨。て。礼。拜。せ。り。時。は。掛。藁。の。彼。首。より。操。九。秋。野。姫。忙。く
き。緯。の。や。う。ハ。那。裏。あ。く。つ。る。あ。り。バ。歎。く。べ。う。と。夫。婦。え
お。恙。な。り。と。宣。へ。水。勢。忽。ち。と。あ。ま。う。て。毘沙門天の。像。ハ。秋。野。姫
の。掌。に。止。り。記。世。音。の。像。ハ。操。九。の。掌。に。宿。せ。の。ハ。兵。衛。夫。婦。

薩六右門太郎亦ハ。形勢。小。雀。躍。し。原。本。彼。神。仏。が。身。う。り。又
さ。の。ひ。ふ。り。と。恐。し。と。渴。仰。隨。喜。の。決。拭。ひ。あ。る。兵。衛。ハ。推。君
姫。君。小。條。松。が。自。叙。の。や。う。に。あ。げ。右。門。太。郎。ハ。是。非。ハ。奪。ひ。とり。
財。布。の。中。より。移。井。の。兵。書。と。金。と。を。獻。下。ぬ。當。下。操。九。ハ。秋。野。姫。と
とも。四。人。の。忠。義。を。賞。嘆。して。且。條。松。が。自。叙。を。惜。と。兵。衛。ハ。一。ひ
毛。撈。く。主。ぬ。り。條。松。が。後。の。る。衣。を。穿。き。迹。を。求。む。と。う。と。近
隣。の。為。に。疑。ん。軟。と。宣。へ。點。止。ぐ。雜。居。兵。衛。ハ。豐。浦。を。お。く。毛
撈。く。主。ぬ。り。薩。六。右。衛。門。右。衛。門。主。君。の。お。供。し。て。河。内。路。へ。赴。き。次。の
日。兵。衛。夫。婦。ハ。條。松。が。亡。骸。を。煙。と。す。白。骨。を。頂。あ。げ。大。和。へ。赴。き。く。
と。法。隆。寺。に。葬。り。ぬ。近。世。の。釋。號。浪。華。見。因。縁。と。い。ふ。の。り。
小。條。松。が。墓。ハ。法。隆。寺。に。あり。と。記。せ。ハ。それ。る。と。軟。く。操。九。ハ

野崎より説音堂の簀子の下より又正元の融麟と云出て。厚
 衣を著り正直坊照善と。夥の金を布施し。正元の亡日毎に経と
 誦し。親世尊の仏恩を拜謝する。兵衛豊浦も参りて。主従に
 志記の毘沙門堂に参詣し。遂に吉野の奥より川を渡り。時の到り
 たり。秋野姫の腹に二男一女出生し。嫡子に楠七郎と名付け。息女
 は此の後の大和の越智の姫と云ふ。其の年を経て。楠七郎
 高福ふらび吉野より起りて。楠七郎大將と云ふ。武畧
 誠忠先祖より芳らむ。志利の大軍と云ひぬ。楠七郎の武畧記
 後醍醐天皇南山より幸めし。五十五年より。南北西帝
 合體す。その後五十年と経る。南帝より吉野より起りて。い
 る。後十五年より。南帝より起りて。南朝の前後
 長き。高福

百六十年より亡びぬ。

○今茲予が著述の傳史五部。所謂松陰情史五冊。俊寛嶋
 物諸八冊。頼豪怪氣傳後編四冊。旬殿実記十冊。播磨
 弓張月統編六冊。亦合巻と稱する。繪草紙三部。釣鐘
 弥左傳十冊。小女郎蜘蛛十二冊。山中鹿之乃稚物諸十
 冊。統計八部。六十五巻より。正月下旬。小草を起し。十一月
 中旬筆を絶。其書第一巻より二巻。ハ七月六日より。同月六
 七日に到り。稿了。秋後病病より。筆硯に親む。され
 ども。書肆の爲に責らる。やがて怪氣傳弓張月。旬殿実
 実記。俊寛嶋物諸。ホの稿を脱し。遂に十一月四日より。至る。
 ゆらび。カ三巻より。稿を起し。カ四巻より五巻。共九十九餘

才

卷之三

一、卷一 詩經

卷之六

軍書小說類藏板目錄

大坂心齋橋通
北久寶寺

河内屋源七郎

楠二代軍物語

平
繪入

五冊

繪本雪鏡談

春曉齋

十二册

楠正行戰功圖繪

氣凌

十一冊

同金花談

春曉齊作

十

小捕公正行父正成卿の遺訓をすり南帝の所

司かんてん孝感專

同前

十冊

神功
三韓良台圖繪

卷之四

五冊

司
龜山
舌

周
明

十

國史実録より上古の事ハ詳ニ知リ難ク本

同
頁
録

同前

十

容態を寫出ぬれば兒女子の同き様だに

ちうこうきよのう

南里直著

十

や
墨と畫王爲齋の意匠を賞一と云ふ一

三

のよひまのちり

柳齋重

卷四

復讐言山有英雄錄 初編 七冊

同 二編 七冊

同 三編 七冊

復讐言山有英雄錄第四輯 七冊

南海 三澤主人 編輯
浪花 鷺齋歌川芳施書 近日發販

繪本誠忠傳 十冊

同 合邦辻 十冊

同 苔茅草紙 十冊

同 淺草靈驗記 十冊

同 忠孝美善錄 十冊

同 彦山靈驗記 十冊

同 二寫英勇記 十冊

同 金毘羅神靈記 十冊

祐天上人一代記圖會 六冊

大死靈解脫物語 二冊

新累解脫物語 五冊

同 中編 五冊

同 後編 五冊

同 後編 五冊

朝比奈巡嶋記 卅冊

同 七編 五冊

同 八編 五冊

小栗外傳 十冊

繪本忠臣藏 十冊

同 後編 十冊

同 拾遺 十冊

同 畫本西遊全傳 十冊

同 二編 十冊

同 三編 十冊

同 四編 十冊

樹史 秋七種 曲亭主人述作

六冊

繪本那智白糸

關山著 北島画 六冊

石言遺郷音 同前 詳齋北馬画

石言遺郷音

同前

五冊

同魁草紙

不可言事作 五冊

同奈古曾の蘭

成和亭裏氏作 詳齋北馬画 五冊

月冰奇縁 同前

月冰奇縁

同前

無

同平泉實記

遠水春曉齋 述作 俵圖画 十二冊

同自來也説話

成和亭裏氏作 十冊

金花夕映

梅暮里谷峨作 北島画

五冊

同口之碑

千鶴屋萬龜作 梅暮里谷峨画 五冊

孝子嫩物語

蘭山作

五冊

風流俄天狗

可編 十冊

繪本夜船譚

葉春 北馬画

六冊

八上鳥影

谷田菊亮作 春曉画 一冊

復讐言初瀬物語

選後亭 繪著 北馬画

七冊

復讐言東物語

金太樓作 一揚斎画 六冊

同安達ヶ原

石田真直画 六冊

再開高臺梅

選後亭 繪著 六冊

開際筆記

續齋藤井先生著

三冊

繪本白壁草紙

東里山人作 每半画 六冊

見外白字蜀利

十返舎九郎 五冊

通俗亞山夢

十返舎九郎 五冊

貧福太平記

春の星主作 保之画 三冊

新田足利外名將の評論 聖武帝の傳を
重んじて長室皇子を賜ひ論及
各因の由を腦油するも僕人我國の事を記す
み奇譚 ありふらふ富玄慧が聖徳太子と聖人との
過差の秘論と 龍鏡 ありふらふの秘史と
て後を記す俗説と 龍鏡 ありふらふの秘史と
公人臣の心を記す ありふらふの秘史と
推し進めし ありふらふの秘史と

教訓きょうくん鄙ひ都と言こと種さ

前編
後編

全四冊

みやくきこうでん
百家琦行傳

岳亭五集

五

森羅子の著作は、惠齋子の画後編、西山子
の画あり。黒田如水の定書、この世に古の能筆家を以
て正盛たるもの絶たり。蒲生氏郷は九歳より附
籠愛を授けしむるも、西老侯如水の意をも、福島正
則は士と慕ひ、是れ亦まづこれ其等の名蹟となる書

雨月物語

上田秋成著

五冊

揚州 續猿蓑毛二編追加

一丸作

二冊

桂林漫錄

桂川中良先生著

二冊

美作孝民傳

十冊

好古博識和漢の雜夏は降りし面筆より
大抵の看人の中よりて面書を書る人

合戰評判

臨代著聞集

古戰評判

太平記

片候
大字

廿一冊

續古戰得失論

續太平記

書
藉
賣
弘
家

文部省御藏版翻刻書類學校用諸掛圖類
地球儀并詩作文類總レ方今要用書類レ格別
出精下直二奉差上候間多二少二不限御用向
仰付被降度奉願候

天降府下志齊橋通契實尋町
前川源七郎

